

シンポジウム

「小腸カプセル内視鏡の未来」

座長 今枝 博（埼玉医科大学病院消化管内科）
江崎 幹宏（佐賀大学医学部附属病院光学医療診療部）
特別発言 中村 哲也（獨協医科大学医療情報センター）

座長の言葉

小腸カプセル内視鏡は 2000 年に登場して以来、ソフトウェアの改良や画質の向上、撮像時間の延長、リアルタイム観察、パテンシーカプセルの導入などにより進歩してきている。また、人工知能（AI）を応用した自動画像解析や可動型カプセル内視鏡、遠隔診療などの報告もみられている。一方で、カプセル内視鏡診療は医師のみならず、本学会の読影支援技師制度に基づいてメディカルスタッフの協力により発展している。

そこで、本シンポジウムでは、今後小腸カプセル内視鏡診療の未来がどのように展開していくかを多方面からご発表していただき討論したい。幅広い内容のシンポジウムとしたいので、奮ってご応募頂きたい。